

【今日の説教から】

ヨセフの兄弟たちはエジプトの地で面倒に巻き込まれ、互いにこう語り合いました。「確かにわれわれは弟の事で罪がある。彼がしきりに願った時、その心の苦しみを見ながら、われわれは聞き入れなかった。それでこの苦しみに会うのだ」

あれから20年。人は蒔いたものを確かに刈り取らなければならないことが示されます。罪を隠しおおせたと思っても、絶対権力者の前に立たされ、罪科を償うときがやってきます。しかしヨセフは彼らにやさしく接しました。彼は雇人にこう言わしめました。

「安心なさい。恐れてはいけません。その宝はあなたがたの神、あなたがたの父の神が…袋に入れてあなたがたに賜わったのです」(43:23)

そして彼は弟ベニヤミンをかばう兄ユダのこの言葉を聞きます。「どうか、しもべをこの子供の代りに、わが主の奴隷としてとどまらせ、この子供を兄弟たちと一緒に上り行かせてください」

この言葉に、彼らが真剣に父と弟のことを思う気持ちを察し、ヨセフはこう語ります。

「わたしはあなたがたの弟ヨセフです。あなたがたがエジプトに売った者です。しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔む(責め合う)こともいりません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです」彼らの中に不和の芽を見ながらも、彼の心には赦しと祝福がありました。残虐な行いをも救いに変える主の慈しみの御業を畏れます。

皆様おはようございます。

ヨセフ物語も、家族との再会を果たすという感動のクライマックスに到達いたしました。あれから20年以上の時間が経ちました。

隠しおおせた、罪の真相を知る者はいない。しかしそうはいきませんでした。兄弟たちはエジプトの絶対的な権力者の前で「確かにわれわれは弟の事で罪がある。彼がしきりに願った時、その心の苦しみを見ながら、われわれは聞き入れなかった。それでこの苦しみに会うのだ」と語り合うときがやって来るのです。

エジプトの国の中で難癖をつけられ、弟を連れて来いと言われ、シメオンを人質に取られ…。彼らにとって弱り切った状況の数々でした。しかしそれは他ならない、彼らの罪から出てくる結果でした。

人は蒔いたものを刈り取らなければなりません。

ガラテヤ 6:7 まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。

6:8 すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は、霊から永遠

のいのちを刈り取るであろう。

6:9 わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。

彼らは弟の命を見捨てて見殺しにしました。人はどうやって人の命のためにその償いをしたら良いのでしょうか。

ローマ 6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

マタイ 5:20 わたしは言うておく。あなたがたの義が律法学者やパリサイ人の義にまさっていなければ、決して天国に、はいることはできない。

5:21 昔の人々に『殺すな。殺す者は裁判を受けねばならない』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。兄弟にむかって愚か者と言う者は、議会に引きわたされるであろう。また、ばか者と言う者は、地獄の火に投げ込まれるであろう。

マタイ 19:23 それからイエスは弟子たちに言われた、「よく聞きなさい。富んでいる者が天国にはいるのは、むずかしいものである。

19:24 また、あなたがたに言うが、富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。

19:25 弟子たちはこれを聞いて非常に驚いて言った、「では、だれが救われることができるのだろう」。

19:26 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない」。

「では、だれが救われることができるのだろう。」まさしくそれがここで言われたお金持ちの人のみならず、神様のご意志に反するすべての人間の問題なのです。

ローマ 3:23 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、

3:24 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。

3:25 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、

3:26 それは、今の時に、神の義を示すためであった。こうして、神みずからが義となり、

さらに、イエスを信じる者を義とされるのである。

3:27 すると、どこにわたしたちの誇があるのか。全くない。なんの法則によってか。行いの法則によってか。そうではなく、信仰の法則によってである。

兄弟たちはどのように導かれていくのでしょうか。彼らは一度家に帰り、父にエジプトにて、位の高い人から弟を連れて来いと言われたことを話しました。父は困惑します。時が流れ、シメオンのことも気にかかり、食べるものにも事欠き、ついに父ヤコブはベニヤミンを送ることを許します。エジプトの地で、前回穀物の代価のために払ったはずの銀がそのまま袋にありましたと話す兄弟たち。

43:19 彼らはヨセフの家づかさに近づいて、家の入口で、言った、

43:20 「ああ、わが主よ、われわれは最初、食糧を買うために下ってきたのです。

43:21 ところが宿に行って袋をあけて見ると、めいめいの銀は袋の口にあって、銀の重さは元のままでした。それでわれわれはそれを持って参りました。

43:22 そして食糧を買うために、ほかの銀をも持って下ってきました。われわれの銀を袋に入れた者が、だれであるかは分かりません」。

43:23 彼は言った、「安心しなさい。恐れてはいけません。その宝はあなたがたの神、あなたがたの父の神が、あなたがたの袋に入れてあなたがたに賜ったのです。あなたがたの銀はわたしが受け取りました」。そして彼はシメオンを彼らの所へ連れてきた。

43:27 ヨセフは彼らの安否を問うて言った、「あなたがたの父、あなたがたがさきに話していたその老人は無事ですか。なお生きながらえておられますか」。

43:28 彼らは答えた、「あなたのしもべ、われわれの父は無事で、なお生きながらえています」。そして彼らは、頭をさげて拝した。

43:29 ヨセフは目をあげて同じ母の子である弟ベニヤミンを見て言った、「これはあなたがたが前にわたしに話した末の弟ですか」。また言った、「わが子よ、どうか神があなたを恵まれるように」。

43:30 ヨセフは弟なつかしさに心がせまり、急いで泣く場所をたずね、へやにはいって泣いた。

43:31 やがて彼は顔を洗って出てきた。そして自分を制して言った、「食事にしよう」。

43:23 彼は言った、「安心しなさい。恐れてはいけません。その宝はあなたがたの神、あなたがたの父の神が、あなたがたの袋に入れてあなたがたに賜ったのです。」

支払うはずの代価を支払わせようとせず、代わりにの者をもって贖い、食べるものと命と幸福とを満たしてくださいます神様に感謝いたします。安心しなさい、恐れるなと神様は御言葉を通して私たちに語り掛けられます。

ヨハネ 16:31 イエスは答えられた、「あなたがたは今信じているのか。

16:32 見よ、あなたがたは散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとりだけ残す時が来るであろう。いや、すでにきている。しかし、わたしはひとりではない。父がわたしと一緒におられるのである。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

44:2 またわたしの杯、銀の杯をあの子の袋の口に、穀物の代金と共に入れておきなさい」。家づかさはヨセフの言葉のとおりにした。

そしてヨセフはもう一度兄弟たちを試します。彼はベニヤミンの袋の中に銀の杯を入れ、彼がそれをとったという嫌疑をかけます。すると兄弟たちはどうするのでしょうか。兄弟たちはかつてのように、父から溺愛されている末の息子を見限るのでしょうか。

44:11 そこで彼らは、めいめい急いで袋を地におろし、ひとりひとりその袋を開いた。

44:12 家づかさは年上から捜し始めて年下に終わったが、杯はベニヤミンの袋の中にあった。

44:13 そこで彼らは衣服を裂き、おのおの、ろばに荷を負わせて町に引き返した。

44:14 ユダと兄弟たちとは、ヨセフの家にはいったが、ヨセフがなおそこにいたので、彼らはその前で地にひれ伏した。

44:15 ヨセフは彼らに言った、「あなたがたのこのしわざは何事ですか。わたしのような人は、必ず占いで当たることを知らないのですか」。

44:16 ユダは言った、「われわれはわが主に何を言い、何を述べ得ましょう。どうしてわれわれは身の潔白をあらわし得ましょう。神がしもべらの罪をあばかれました。われわれと、杯を持っていた者とは共にわが主の奴隷となりましょう」。

44:17 ヨセフは言った、「わたしは決してそのようなことはしない。杯を持っている者だけがわたしの奴隷とならなければならない。ほかの者は安全に父のもとへ上って行きなさい」。

44:18 この時ユダは彼に近づいて言った、「ああ、わが主よ、どうぞわが主の耳にひとこと言わせてください。しもべをおこらないでください。あなたはパロのようなかたです。

44:19 わが主はしもべらに尋ねて、『父があるか、また弟があるか』と言われたので、

44:20 われわれはわが主に言いました、『われわれには老齢の父があり、また年寄り子の弟があります。その兄は死んで、同じ母の子で残っているのは、ただこれだけですから父はこれを愛しています』。

44:21 その時あなたはしもべらに言われました、『その者をわたしの所へ連れてきなさい。わたしはこの目で彼を見よう』。

44:22 われわれはわが主に言いました、『その子供は父を離れることができません。もし父を離れたら父は死ぬでしょう』。

44:23 しかし、あなたはしもべらに言われました、『末の弟と一緒に下ってこなければ、おまえたちは再びわたしの顔を見ることはできない』。

44:24 それであなたのしもべである父のもとに上って、わが主の言葉を彼に告げました。

44:25 ところで、父が『おまえたちは再び行って、われわれのために少しの食糧を買ってくるように』と言ったので、

44:26 われわれは言いました、『われわれは下って行けません。もし末の弟と一緒にあれば行きましょう。末の弟と一緒にでなければ、あの人の顔を見ることはできません』。

44:27 あなたのしもべである父は言いました、『おまえたちの知っているとおりの妻はわたしにふたりの子を産んだ。

44:28 ひとりとは外へ出たが、きっと裂き殺されたのだと思う。わたしは今になっても彼を見ない。

44:29 もしおまえたちがこの子をもわたしから取って行って、彼が災に会えば、おまえたちは、しらがのわたしを悲しんで陰府に下らせるであろう』。

44:30 わたしがあなたのしもべである父のもとに帰って行くとき、もしこの子供と一緒にいなかったら、どうなるでしょう。父の魂は子供の魂に結ばれているのです。

44:31 この子供がわれわれと一緒にいないのを見たら、父は死ぬでしょう。そうすればしもべらは、あなたのしもべであるしらがの父を悲しんで陰府に下らせることになるでしょう。

44:32 しもべは父にこの子供の身を請け合って『もしわたしがこの子をあなたのもとに連れ帰らなかったら、わたしは父に対して永久に罪を負いましょう』と言ったのです。

44:33 どうか、しもべをこの子供の代りに、わが主の奴隷としてとどまらせ、この子供を兄弟たちと一緒に上り行かせてください、

44:34 この子供を連れずに、どうしてわたしは父のもとに上り行くことができましょう。父が災に会うのを見るに忍びません」。

レアの子の4番目のユダが父の悲しみを見たくないからどうしてもこの末の息子を返してください、もう父は愛するもう一人の子を失っており、これ以上の悲しみには耐えられないと語りました。父に誓ってここに連れてきたのですから、どうぞこの私をこの子供の代わりに奴隷としてとどまらせてください、そしてこの子供を帰らせてください。

ここにも身代わりと贖いの話があります。自分の命を懸けてでもこの子を守るというユダの言葉は気迫の溢れるものでした。彼は本心から父と弟のことを思っていました。

45:1 そこでヨセフはそばに立っているすべての人の前で、自分を制しきれなくなったので、

「人は皆ここから出てください」と呼ばわった。それゆえヨセフが兄弟たちに自分のことを明かした時、ひとりも彼のそばに立っている者はなかった。

45:2 ヨセフは声をあげて泣いた。エジプトびとはこれを聞き、パロの家もこれを聞いた。

45:3 ヨセフは兄弟たちに言った、「わたしはヨセフです。父はまだ生きながらえていますか」。兄弟たちは答えることができなかった。彼らは驚き恐れたからである。

45:4 ヨセフは兄弟たちに言った、「わたしに近寄ってください」。彼らが近寄ったので彼は言った、「わたしはあなたがたの弟ヨセフです。あなたがたがエジプトに売った者です。

45:5 しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むこともいりません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。

ヨセフはこの兄の本心を見て、かつての自分のようにベニヤミンは見捨てられることがなかったことを知り、安堵し、内からこみ上げる涙を抑えることが出来ませんでした。彼はもはや自分を隠すことをしませんでした。

そしてヨセフは許しと祝福の言葉を兄弟たちに語るのです。

45:4 ヨセフは兄弟たちに言った、「わたしに近寄ってください」。彼らが近寄ったので彼は言った、「わたしはあなたがたの弟ヨセフです。あなたがたがエジプトに売った者です。

45:5 しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むこともいりません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。

「嘆くことも、悔むこともいりません」これは新共同訳聖書においては、「悔やんだり、責め合ったりする必要はありません」であり、もっと言えば、ヘブライ語原典では、「痛みに思ったり、あなたの目の中に怒りを持たないでください」と書いてあります。

ヨセフと食事を共にし、ユダの心根に感動して彼が泣き、近づいてくださいと乞われ、父は元気ですかと和らぎをもって語られてもまだ今もなお兄弟たちはヨセフからの報復を恐れていました。ここに来てもなお彼を信用せず、この後きつと油断させておいて自分たちを手にかけて信じ切って心を弱り果てさせ、この20年意志せよう経った今でも、ヨセフを手にかけてたことを、大変なしくじりだったとして、自分が後悔するよりもむしろ怒りの目を持って互いに見つめ合う、彼らはそういう不穏な兄弟たちだったのです。

思えば、確かにわれわれは弟の事で罪がある。彼がしきりに願った時、その心の苦しみを見ながら、われわれは聞き入れなかった。それでこの苦しみに会うのだ」と彼らが弱り切っていたのも、自分たちの旗色が、風向きが悪いからであり、そうして弱っているだけであり、本当の後悔と懺悔からは遠いものだったのではないのでしょうか。

私たち人間の、軽薄な人間性がここに見透かされ、現わされているように思います。私たちは悔い改めて救われる、自分の力でも捧げものでなくても信じるだけで、悔い改めるだけで贖いによりと聖書にあります、私たちの悔い改めだって、それが合格点だからそれに免じて赦していただけるというものでないのではないかという事がこの聖書の箇所からわかる気がいたします。すべて、神様の恵と憐れみと祝福によるものであると教えられます。

45:5 しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むこともありません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。

45:6 この二年の間、国中にききんがあったが、なお五年の間は耕すことも刈り入れることもないでしょう。

45:7 神は、あなたがたのすえを地に残すため、また大いなる救をもってあなたがたの命を助けるために、わたしをあなたがたよりさきにつかわされたのです。

神様はイエス様をお遣わしになられ、お苦しみにならせられ、私たちのために先に進まれ、先にある救いの道を切り開かれました。

私たちは、自分たちの悪い行いがあったから、兄弟たちがヨセフを見捨てたから結果的に自分が救われたなどと到底思うことはできません。人の罪はあくまでむごたらしいものです。しかしその人の罪を、その到底受け入れられない所業を、神様は圧倒的な恵みによって、一人の人の苦しみを通して私たちのための救いへと転化させてくださるのです。

そのような神様の御業を知っては、どうして私たちは罪に留まることが出来るのでしょうか。今回罪が赦されたのなら、次回とばれないように巧妙にやろうなどと考えるのでしょうか。神様は圧倒的な恵みと愛で、私たちのむごたらしい所業を、一人の人の苦しみとして負わせることによって私たちを赦し、滅びの道から命の道へと導き返してくださるのです。

ローマ 6:1 では、わたしたちは、なんと言おうか。恵みが増し加わるために、罪にとどまるべきであろうか。

6:2 断じてそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なお、その中に生きておれるだろうか。

6:3 それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。

6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。

6:5 もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にひとしくなるであろう。

6:6 わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字

架につけられた。それは、この罪のからだが減び、わたしたちがもはや、罪の奴隷となることがないためである。

6:7 それは、すでに死んだ者は、罪から解放されているからである。

6:8 もしわたしたちが、キリストと共に死んだなら、また彼と共に生きることを信じる。

6:9 キリストは死人の中からよみがえらされて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を支配しないことを、知っているからである。

6:10 なぜなら、キリストが死んだのは、ただ一度罪に対して死んだのであり、キリストが生きてるのは、神に生きるのだからである。

6:11 このように、あなたがた自身も、罪に対して死んだ者であり、キリスト・イエスにあって神に生きている者であることを、認むべきである。

6:12 だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることをせず、 6:13 また、あなたがたの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。

6:14 なぜなら、あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの下にあるので、罪に支配されることはないからである。

6:15 それでは、どうなのか。律法の下ではなく、恵みの下にあるからといって、わたしたちは罪を犯すべきであろうか。断じてそうではない。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

兄弟たちのむごたらしい残虐な罪深い行いを、あなたはヨセフの犠牲の生涯を通して家族と民族全体の救いへと変えてくださいました。悪い行いはされるべきではありませんが、人の過ちをもあなたは一人の人、御子の犠牲と贖いによって赦し、滅びから命へと導き返してくださいますから、本当にありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン